

## とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	住所 板橋区上板橋 1-16-19 アソルティ 上板橋 1F
園名	園名 アスク上板橋保育園

### 1. 活動のテーマ

国旗

日頃から英語に親しみをもっており、海外の文化に触れる機会を増やしより一層子ども達の興味関心を高められるようテーマを設定。身近にある国旗や世界地図を活用して遊びや活動の幅を広げる。

### <活動スケジュール>

11月から3月まで行い、月に1回ネイティブの講師を招致し他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるようにする。

11月15日(金)：英語で自分の名前、好きな食べ物の言い方を知り一人ずつ試してみる  
絵カードを使って日本とアメリカの国旗や地図、食べ物などを理解し比べていく

12月6日(金)：一人ずつ自分の名前と好きな食べ物を順番に試してみる。様々な国旗の  
カードを見て、その国旗の特徴を学び理解していく

1月10日(金)：ひとりひとり自分の名前と好きな食べ物を講師と一緒に言う。講師と国  
旗をみてどこの国旗か復習 1人一枚紙を配り好きな絵を描きオリジナルの国旗を作る"

2月7日(金)：前回から描き、完成したオリジナルの旗にどんな模様を描いたかどんな色  
を使用したかを英語で発表する。"

3月：7日(金)英語で自己紹介を行う。2グループに分かれそれぞれオリジナルの旗を作  
成し、どんな絵を描いたか何色にしたのか発表する

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・地球儀
- ・世界地図パズル

### 4. 探究活動の実践

地球儀を見て日本やアメリカを探していた。子どもたち同士で『ここにあったよ！』教え合っていた

#### <活動の内容>

- ・自分のオリジナルの国旗を描く

#### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・「日本みたいにしたよ！」「いろんな色にしたよ！」
- ・自分が書いた国旗と友だちが描いた国旗を見せ合っていた
- ・絵カードを見てアメリカと日本の違いに興味を持っているようだった
- ・それぞれが思い描いた国旗を描き自分だけの特別な国旗に特別感を抱いていた

### 5. 振り返り

「日本とアメリカのちがいは？」という導きで始めたが理解するのが難しい様子だったが、国旗の絵カードには友好的だった。視覚的な働きかけは親しみやすい様子がみられたので視覚的な活動を取り入れた。国旗を描く活動ではそれぞれが好きのように描くことで国旗というものが何なのか理解している様子だった



<振り返りによって得た先生の気づき>

国旗や日本と海外の違いを比べる前に日本を知ることと、日本以外の場所があることを伝えさまざまな国の国旗や文化の違いを学ぶ機会を設定すると良いと感じた。日ごろから遊びの中で国旗や海外の食べ物や文化の違いに築ける様遊びの中に取り入れる。

## とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都板橋区上板橋 1-19-16 アソルティ上板橋 1F
園名	アスク上板橋保育園

### 1. 活動のテーマ

絵本

日頃から読み聞かせの時間を設けており、より一層見る・読むことの楽しさを見つけられたらと思い、絵本に関する探究活動を行うことが適切と考えた。  
「三匹びきのこぶた」を発表会で行ったということもありより興味を持って取り組むことが出来た。

### <活動スケジュール>

- 1 1月から3月まで行い、月に1回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。
- 11月11日(月)：絵本の読み聞かせを実施。絵本や曲から出てくる音を聴き、形や情景を想像する。また、音楽を聴いて思い浮かんだ食べ物をお皿の描かれた紙に自由に表現する。
- 12月2日(月)：絵本をBGMに合わせてながら読み聞かせを行う。絵を見ながら音楽を聞いて情景を想像する。
- 1月6日(月)：音楽を流しながら「三匹のこぶた」の絵本を見た。BGMがあることによって引き込まれていた。その後絵本に出てくる音を保育園の中で探した
- 2月3日(月)：「三匹のこぶた」に出てくる藁、木、風の音を探して発表する。  
講師の絵本の読み聞かせに合わせて実際に見つけた音を鳴らしてみる
- 3月17日(月)：講師が絵本の読み聞かせを行い、それに合わせて自分たちが見つけてきた音を鳴らす。子どもたちは楽しそうに鳴らしていた。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・クレヨン
- ・紙
- ・玩具
- ・新聞紙

クレヨンは音楽を聴いて想像した物を描く時につかった。その他の物は絵本の読み聞かせに合わせて音を鳴らすために使用。

### 4. 探究活動の実践

<活動の内容>

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・「いい音するよ!」「こっちにもあるよ!」と発言していた
- ・子どもたちが見つけた音に合わせてその都度読み聞かせをしてみた。
- ・絵本を読むと、夢中になって絵本を見ていた。
- ・絵本に出てくる音をみんなで協力して探していた。

### 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

BGM や効果音が加わることによってより絵本の世界観に没頭することが出来ていた。一冊の絵本を追求することでより絵本に興味関心が持つことが出来ていた。他の絵本でも取り組んで行きたい。

BGM や効果音によってより絵本の世界に没頭出来ていた。また自分たちで絵本に出てくる音を探す事で自分の役割を理解し友だちと協力して活動する姿が見られた。



## とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	住所 板橋区上板橋 1-16-19 アソルティ 上板橋 1F
園名	園名 アスク上板橋保育園

### 1. 活動のテーマ

からだ

普段の戸外活動では探索活動やかけっこなど決まった遊びをすることが多く、新しい運動遊びや自分が苦手なものはあまり参加したがない姿がある。  
自分の得意不得意を知り、得意分野を伸ばしていくことで自信をつけ様々な運動遊びに挑戦出来るようにしていく。

<テーマ>

<テーマの設定理由>

### 2. 活動スケジュール

1 1月から3月まで行い、月に1回体操の講師を招致し身体の動かし方についてこどもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てる。  
○11月よりジャンプ力、走力、押す力、引く力、柔軟性、バランス能力の6項目それぞれの体力測定を行い、自分の得意不得意を知る。  
前回の記録を元に、自分の伸ばしたい力別にグループに分かれる。  
グループ内でどんな遊びをすると力が伸びるかを話し合う。  
前回考えた遊びをこの回までに実践、その後計測を行う。  
前回よりも記録が伸びる子がほとんどであった。  
前回とは違うグループに再度分かれ、新たな遊びの内容について考える。  
考えた内容を実践も行う  
前回考えた遊びをグループごとに発表。その後計測を行う。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

グループごとでの活動の際は、それぞれのスペースを十分に確保し、考えた内容をスムーズに実践できるようにした。

- ・鉄棒
- ・縄跳び
- ・マット
- ・計測シート

### 4. 探究活動の実践

それぞれで考えた遊びを形にする際に使用。計測シートは記録用。

<活動の内容>

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

年長児を中心にアイデアを出しながら遊びを考える姿があった。

「もっとこうしたほうがいいかも！」と子ども達同士で更に記録を伸ばす為にはどうしたらよいかの意見を積極的に出す姿があった。



## 5. 振り返り

講師や保育者、他グループ友だちの意見を聞きながら遊びを考えることが出来た。その時間が有効になり苦手意識を持たず“やってみよう”という前向きな姿が見られた。自信を持って測定していた。

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・子ども同士で話し合いを進める良い機会になった。
- ・子どもたちは自分たちが考えた遊びを実践し結果として伸びた事をととても喜んでいて、とても良い経験になった。

## とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	住所板橋区上板橋 1-16-19 アソルティ上 板橋 1F
園名	園名 アスク上板橋保育園

### 1. 活動のテーマ

からだ

身体を動かすことが好きな子が多く戸外活動では鬼ごっこや縄跳びなどで遊ぶ姿が見られる。保育者自身も遊びの中でどんな遊びを取り入れていくか考えている。自由遊びの際に遊んでいる姿をみて運動に関する探究活動をすることが適切と考えた。

### 2. 活動スケジュール

- 1 1月から3月まで行い、月に1回体操の講師を招致し身体の動かし方についてこどもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てる。
- 11月26日(火)：走る”ジャンプ””引く”など一人ずつ測定し、自分がどれだけの力があるのかを知る。自分の苦手な事得意なことを知り、苦手な事はどんなことをしたら伸ばせるかを次回までに考える。
- 12月24日(火)：4グループになりどんな遊びをしたら良いか話し合えるグループと理解できずにいたグループがあった。保育者や講師も一緒になり話し合いに参加すると良い案が出てきた”
- 1月28日(火)：一人ずつ前回よりもどのくらいジャンプする力が付いたのか測定する。前回よりも記録が伸びている子がほとんどだった。次は引く力に焦点をあて遊びを考えて実践していく。”
- 2月25日(火)：2グループに分かれてそれぞれどんな遊びをしたらジャンプの力が付くか話し合いを行った。子どもたち同士だけの話し合いは難しく各グループに講師と保育者がそれぞれ付いた。次回までに考えた遊びをそれぞれやってみる。”
- 3月7日(火)：それぞれ考えた遊びを実践する。その後、二人ずつどこまで飛べるか測定した。ほとんどの子が初回の記録よりも伸びていた。”

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・竹馬
- ・キャタピラ
- ・ジャンピングマット
- ・測定シート

### 4. 探究活動の実践

キャタピラの中に入り競争を行った。どうやったらうまく出来るか、早く進むかなど考え意見を出し合いながら行っていた。

#### <活動の内容>

#### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・「いっぱい飛べた!」「出来るようになった!」
- ・グループに分かれてどんな遊びをしたらジャンプの力が付くのかを考え意見を出し合っていた

一つのテーマについて2グループに分かれて話し合いを行った。保育者からの問いの投げかけや園児のちょっとした発言から子どもたちからは様々な案が挙げられた。その案を戶外活動中に行い測定につなげた。

## 5. 振り返り

子どもたちの様子や発言をもとに“ジャンプ”の項目に絞り、2 グループに分かれて少人数で話し合いをすることで一人ひとりが自発的に話し合うことが出来た。

<振り返りによって得た先生の気づき>

3 歳児はまだ自分たちで話し合うことが難しい様子があった為、声掛け、グループ分け探究項目を工夫した。子どもたちは自分たちが考えた遊びを実践し結果として伸びた事をととても喜んでいて、とても良い経験になった。

